



高島第一中学校だより 6月号

“高島第一中学校学びのエリア”

(新河岸小学校・高島第一小学校・高島第一中学校)

令和8年6月25日

校長 武田 雅之

雨の季節に「自律」を磨きましょう

街中の紫陽花が色鮮やかに咲き競い、しっとりとした雨が木々の緑をいっそう引き立てる季節となりました。関東地方も梅雨に入りましたが、近年ではしとしとと長く雨の降る様子というより、短時間に大量に雨が降ることが多くなっています。夏の台風シーズンと同様に、梅雨の時期も大雨災害について意識しなければいけない環境になってきていることを実感する日々です。

この梅雨の時期、私たちはつい「外で活動できない」「濡れて不快だ」と物事をネガティブに捉えがちです。しかし、中学生という多感かつ知的成長の著しい時期において、外出機会が減少する梅雨は自らの内面を見つめ直し、「静の学び」を深める絶好の機会でもあります。先日期末考査が終わりましたが結果はいかがだったでしょうか。外での活動が制限される雨の日こそ、スマートフォンの画面を閉じ、机に向かってじっくりと振り返りの学習に取り組む絶好のチャンスです。また、図書館などで静かに良書と向き合い、思索を深めるのも良いでしょう。雨の日の静寂は、生徒の皆さんの「自律の力」と「知性」を磨き、内面を豊かにしてくれる貴重な時間になります。

一方で、雨天時は物理的な危険も増大します。例えば自転車の利用について。傘を差しながらの運転は、バランスを崩して転倒したり、安全に止まれなかったりと自分自身の命を危険にさらすだけでなく、状況によっては他者を傷つける恐れがあります。道路交通法が改正され、16歳以上に青切符が導入されました。中学生は青切符の対象ではありませんが、道路における自転車利用のルールは同じです。自分の安全を守ることは当然ですが、他の人を巻き込むことがないように十分気を付けて自転車を利用しましょう。「地域の模範」となる交通行動を自ら選ぶこと、それもまた中学生に求められる「自律」の姿となります。

さらに、六月は梅雨前線の活発化による局地的な大雨や、台風の接近が増え始める「防災」の季節でもあります。近年多発する線状降水帯による想定外の大雨や、大型台風の上陸に対し、中学生には「誰かの指示を待つ」のではなく、「主体的に危険を予測し、判断する」力を身につけてほしいと願っています。ハザードマップで自宅周辺や通学路の危険箇所を自ら確認しておくこと。気象予報に関心を持ち、土砂災害や河川の増水が迫る前に自ら安全な行動「自助」を起こすこと。そして自身の安全が確保された後は、近隣の小学生や高齢者に温かく手を差し伸べる「共助」の精神を発揮すること。これらは、これからの変化の激しい不確実な社会を力強く生き抜くために不可欠な力です。

保護者の皆様におかれましては、毎日の濡れた衣服や通学道具のケア、安全な登下校への温かい見守りなど心より感謝申し上げます。寒暖差や気圧の変動により、心身のバランスを崩しやすい時期でもあります。ご家庭でも「いつもより早く寝る」「朝食をしっかり摂る」など、体調管理へ一層のご配慮をお願いいたします。この雨の季節を通じて、生徒たちが自らの足元を固めて「自律」を磨いてくれることを期待しています。引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。